

1 令和6年度の成果と課題

- ・上体起こしの基となる、力強さ、粘り強さがある児童が多い。
- ・自分の体を支えたり、回ったりする運動が苦手な児童が多い。
- ・ボール投げをする経験が令和5年度同様減少してきている。
- ・思考力・判断力に課題のある児童が多い。

2 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

1 自分の体を支えるための運動を取り入れ、運動が苦手な児童の指導を工夫する。

低： 器械・器具を使つての運動遊びで、多様な運動感覚を身に付けさせる。

中： 多様な動きを取り入れた運動をさせる。

高： 自分の体重を支えるだけの筋力をつけさせるため、力試しの運動やコオディネーショントレーニングを適宜取り入れていくようにする。

2 ゲームなどで思考力・判断力・表現力などを身に付け、握れるボールを使い、体をねじる動作を意識させた「投げる」動作を身に付けさせる。

低： ①ボールゲームを通し、楽しみながら多様なボール操作ができるようにさせる。

②多様な動きを授業で経験させる。

中： ①ルールを工夫、作戦を選んでチーム内に伝える。

②ゲームに必要な技能を高める中で、ボールを投げる動作を取り入れる。

高： ①ボールゲームとともに、基礎体力を身に付ける縄跳びや走・跳の運動につながる動きを体育だけではなく日常的に取り入れていくようにする。

②ゲームに生かす、技能を高めるチームで考えた練習タイムを設定する。

3 普段の運動の中からすばやさ、タイミングのよさを身に付ける運動を行う。

低： 工夫の仕方を例示し、多種多様な運動を実践させる場面を多くする。

中： 実践する場面を多くとり、課題・めあてをもって運動に取り組み、評価と反省を何度か行う。

高： 多様な実践の場面を設定し、個別の課題の設定や評価につなげていく。